

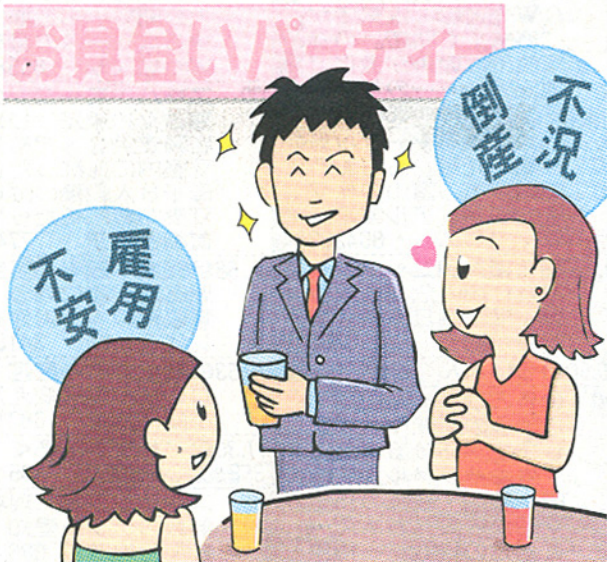
不況下、経済力ある男性求め

神々新聞

若い女性「婚活」盛況

出口が見えない不況の中、結婚したい人たちの活動「婚活」が盛況だ。昨秋以降、結婚相談所などに入会する女性が急増、中でも二十代から三十代前半が目立って多い。ほの見えるのは経済力がある安定したパートナーを見つけたという心理。景気後退が結婚を後押しする？

(坂口絢美)



イラスト・粟津朋光

結婚相談所など急増
20-30代

高まる専業主婦願望

「去年のリーマンショックからです。こんなことは初めて」
関西を中心に約三百人の仲人をつくる「日本仲人協会」(西宮市)の中西圭司社長(五〇)は驚きを隠さない。毎月的女性入会者が五・八割増え、その大半は三十代前半まで。ここ十年ほどの主流だった四十歳前後を大きく上回る。

協会が開くお見合いパーティーも昨年のクリスマス以降、女性の定員は数日ぐらいいっぱい。「雇用不安が広がり、結婚で安定を手に入れた人が増えている」と話す。加藤寿章さん(四三)は話す。

「婚活」時代の共著があるジャーナリスト白河桃子さんの話。今の二十代はリストラや就職氷河期を身近に感じて育った。先輩女性は育児との両立に必死か、仕事一筋で晩婚だったり独身だった

が増えているようだ。大手の結婚情報サービス業も傾向は同じ。会員約四万人という「ツヴァイ」(東京都)は、一・三月の入会者のうち二十代は前年度比50%増。三十五・四十五歳の同25%増を大きく上回った。会員約五万人という「オーネット」(同)も昨秋から二十五・三十歳くらいの女性入会者が大幅に増えたという。不況下では男性の入会が減り、女性が増えるというのが業界の通説だが、それが顕著に表れている。

国の統計によると、専業主婦願望が強いのは六十代に次いで二十代。「この不況の時代、結婚情報サービスに頼らないと結婚できない」と、世間が納得したことが大きいと「オーネット」広報室の加藤寿章さん(四三)は話す。

背景に「仕事環境への絶望」

「婚活」時代の共著があるジャーナリスト白河桃子さんの話。今の二十代はリストラや就職氷河期を身近に感じて育った。先輩女性は育児との両立に必死か、仕事一筋で晩婚だったり独身だった

「婚活」時代の共著があるジャーナリスト白河桃子さんの話。今の二十代はリストラや就職氷河期を身近に感じて育った。先輩女性は育児との両立に必死か、仕事一筋で晩婚だったり独身だった